

會計法改正法律案外一件

會計法改正法律案 明治三十九年法律第三十四號中改正法律案 臨時國庫證券法中改正法律案

委員會會議錄(速記)第五回

會議

大正十年二月十五日午後二時三十五分開議

出席委員左ノ如シ

- 指出 義雄君 內山安兵衛君 野村治三郎君
北井波治目君 岩崎幸治郎君 妹尾 順平君
水野吉太郎君 毛里保太郎君 林原政一郎君
山口 嘉藏君 高島七郎右衛門君 鈴置倉次郎君
八並 武治君 近藤 達兒君
出席政府委員左ノ如シ

法制局參事官 馬場 鏌一君
大藏省主計局長 神野勝之助君
大藏書記官 西野 元君 太田嘉太郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

會計法改正法律案

會計法改正法律案

明治三十九年法律第三十四號中改正法律案

臨時國庫證券法中改正法律案

○委員長(指田義雄君) 引續イテ開會ヲ致シマス、質問ハ既ニ終了致シタノデアリマスガ、當席カラ一遍質問シテ置キタイ點ガアリマスカラドウゾ、會計法ノ改正ニ依ッテ金庫制度ヲ預金制度ニ改ムルト云フコトガ、此法律ノ根本デアリマスルガ、此法律ノ精神ヲ更ニ擴張シテ、府縣以下ノ公金ノ取扱ニ於キマシテモ、政府ハ近イ將來ニ於テ同様ノ意味ニ依ッテ預金制度ニ改ムルノ意思ガアルカドウカト云フコトヲ、參考ノ爲メニ問イテ置キタイ

○神野政府委員 縣ノ會計ハ縣其他市町村等ニ於キマシテ、ソレノ自治體ノ決議ヲ以テ行フテ居ルノデアリマスルカラ、政府ノ國庫制度ヲ預金制度ニ改ムルト同時ニ、政府ガ法律ヲ作ルトカ云フヤウナコトヲシテ、直チニ政府ト同ジク預金制度ヲ公共團體ニ實行サセル、直チニヤラセルト云フ意思ハ唯今持ッテ居リマセヌ、現在公共團體ノ金庫制度ハ、金庫制度ト預金制度ノ間ノ子ノヤウナ扱ヒラシテ居ル所モアルノデアリマシテ、例ハ其府縣ノ農工銀行ニ縣金庫ヲ扱ハセテ居ル、扱ハセテ居ルガ、預金ガ或ル限度以上ニシナケレバ、或ル程度迄ハ農工銀行ニ預金トシテ運用ヲ許スト云フヤウナ事ヲ契約ニ依ッテ極メテ居ル、所ガアルノデアリマス、預金制度ニ致シマスルニハ、其預金ヲ扱フ所ノ銀行ノ基礎鞏固ニシテ資力充實シテ居ラヌト云フコト、十分ニ

之ヲ行フコトガ出來ヌノデアリマスカラ、府縣其他公共團體ニ今直チニ預金制度ヲ國家ノ制度ニ倣フテ行フト云フコトハ、或ハ困難デアアルカモ知レマセヌ、併シ漸次金融機關ノ完備スルニ從ヒマシテ、國庫ノ預金制度ト同様ニ、サウ云フ趨勢ニ赴イテ來ルコト、考ヘテ居リマス
○委員長(指田義雄君) 是デ總テ各案ニ就テノ質問ハ終了シタコト、致シテ差支ゴザイマセヌカ、ソレデハサウ云フコトニ致シマス
○鈴置倉次郎君 簡單ニ申上ゲマスガ、私ハ此會計法ニ就テ一ノ修正意見ヲ申述ヘマス、此法案第三十一條ノ契約ニ關スルコトデ質問ノ際ニ政府委員ニ御尋フ致シマシタ、私ガ修正スル意思モ申上ゲマスレバ、此政府ノ會計取思ヒマスカラ、極ク簡單ニ申上ゲマスレバ、此政府ノ會計取締ト云フコトニ就キマシテハ、契約ト云フコトガ主タル事デアリマス、會計ノ紊亂ト云フコトモ多ク此契約ニ起ル、是迄ハ第三十一條ノ前項ニアリマスル如ク、法律若クハ勅令ニ定メタル例外以外ハ總テ契約ニ依ルト云フノ原則デアリタノデアリマス、今回之ニ第二項ヲ加ヘラレマシテ、國務大臣前項ノ方法ニ依リ契約ヲ爲スヲ不利ト認ムル場合ニ於テハ指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルトコトヲ得ト云フ第二項ガ加テ居リマス、ソレガ恐レベキ弊害ヲ生ジハセヌカト云フ杞憂デアアル、時勢ノ進歩ニ從ヒマシテ多少變化ヲシテ參ラネバナラスノデアリマスガ、私共ガ考ヘマス、時勢ノ進歩ト共ニ益、奸惡ナル手段ガ契約等ニ行ハレテ居ルコトヲ認メテ居リマスカラ、寧ろ斯ル改正ヲ爲ス上ニ云フコトハ改惡デアラテ、改正デナイト固ク信ジテ居リマス、若シ斯ノ如ク致シマシレバ、必ズ忌ハシキ結果ガ續出スルデアラウト云フコトヲ竊ニ杞憂致スノデアリマス、先般政府委員ノ御答辯ニハ、ソレハ會計檢査院ト云フモノガアルシ、若クハ國務大臣ヲ信ジテ宜カラウト云フ御話ガアリマシタガ、會計檢査院ト云フモノハ、御承知ノ通り經常ノ場合ニ於キマシテハ、書面審理デアリマス、サウシテ會計檢査院ノ檢査官ガ眼光紙背ニ透ルモノデアリマセヌ、假ニ事後書類ニ依ッテ檢査致シマシテモ、或ハ斯ノ如キ事ガアルト致シマシテモ不十分デアアル、御說ノ通り檢査院ガ檢査報告ニ掲載致シマシテ、議會ニ提出致シマスル事項ハ澤山アリマスルガ、其大部分ハ法律違反トシテ掲ゲラレタルモノハ左程重大ナ事件ガナイ、如何ナル事カト云ヘバ、多ク主ナルモノヲ申シマシレバ、ハ政府ノ請負若クハ買賣契約ト云フコトニ就テ、今日競争契約ヲ原

則トシテアルニ拘ラズ、巧ミニ法網ヲ潛シテ不正ヲアル者ガアルノデアリマス、大部分ノ事ハ金額モ少ナク詰ラヌ事デアリマスカラ、斯ノ如キ事ニ第二項ヲ御加ヘナルノハ宜シクナイト思ヒマス、大臣ガ契約ノ衝ニ當ル者デナク、認メハスレデアラウケレドモ、事實ハ官判ヲ捺スノデアリマスカラ、不正ナル行動ガ此間ニ行ハレルトハ火ヲ賭ルヨリモ明カデアリマス、縱シ大臣ガ非法ヲ行ハヌ立派ナ人デアッテモ、正直ナル大臣ノ下ニ往キ不正ナ者ガ跋扈スルト云フコトガアルノデ、愚直ナ人ノ下ニ惡人ガ横行スル例ガ澤山アリマス、現ニ各省トハ申シマセヌガ、多ク陸軍等ニ於テ斯カル實例ガ澤山アリマス、僅カナ周旋位ナコトデアリマスケレドモ、陸軍ノ如ク多數ノ品物ヲ買上ゲル、糧食、馬糧、被服、特別會計ニ屬スルモノニ就テハ繼續的ニ物ヲ買入レリ致シマスカラ、善良ナル官吏モ長ク其職ニ在リマシレバ、御用商人カラ腐敗セシメラレレル傾向ガアリマシテ、陸軍邊リノ會計官吏等ニハ、大分トハ申シマセヌガ、多ク腐敗シテ居ル人ガ今日アルコトヲ固ク信ジテ居リマス、現ニ或ル商人ノ如キハ之ヲ言明シテ居ル者モアリマス、是ハ今日競争契約ヲ原則トスルニモ拘ラズ斯ノ如キ事ガアルトスレバ、之ヲ大臣ノ認定ト云フコトニ依テ本則ヲ没却スル所ノ第二項ヲ加ヘルト云フト、會計ノ紊亂ガ是ヨリ起リマスカラ、第二項ハ削除セラレンコトヲ願ヒマス、簡單ニ削除ノ理由ヲ申上ゲテ置キマス
○委員長(指田義雄君) 鈴置君ノ修正ノ御意見ハ、會計法第三十一條ノ第二項ヲ削除スベシト云フコトデアリマスガ、御贊成ガアリマスカ
〔贊成〕ト呼フ者アリ
○委員長(指田義雄君) モウ修正ハ他ニアリマセヌカ
○近藤達兒君 私モ修正意見ヲ提出致シタイと思ヒマス、改正案ノ第十一條、此全文ヲ削除致シタイと思ヒマス、其理由ハ前回政府委員ノ御答辯ニ依ッテモ私ハ甚ダ不満足デアリマスガ、此翌年度ニ互ル契約ヲ締結スル目的ノ爲メニ、前年度ニ於テ金額タケテ議會ノ協贊ヲ得テ決定メテ置キタル云フコトハ、私共ノ見解トシテハ、憲法第六十二條第三項ニ於テ、國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スニハ議會ノ協贊ヲ要スルト云フコトガアリマスカラ、契約ヲスル場合ニハ必ズ議會ノ協贊ヲ經ベキコトガ、憲法ノ原則トシテ定メラレタルルニモ拘ラズ、金額タケテ決定メテ契約ヲ決定スルト云フコトハ、憲法第六十二條ノ第三項ニ違背スルト考ヘマスシ、又翌年度ニ互ル豫算ヲ繼續事業デモナイノニ取ッテ置キタル云

フコトモ、憲法上宜シクナト思ヒマス、又四十二議會ニ於テ政府委員ノ説明ニ依レバ、是ハ恰モ第二豫備金ノ如キ性質ノモノト解釋シテ宜イト云フコトデアリマシタガ、サウスレバ第二豫備金ガ取テアルニモ拘ラズ、又此外ノモノハ爰ニ設ケテ置クト云フコトハ、矛盾シクコト、モ考ヘマスガ、此條文ヲ設ケタト云フコトハ、政府ノ仕事ヲスル上ニ於テハ便宜カモ知レヌケレドモ、是ガ出來マシテモ所謂財政上ノ緊急處分ナルモノガ此條文ノ爲メニ根絶サレカト云フ、財政上ノ緊急處分ハ是ガ設ケラレテモ根絶スル譯ニ行カヌト云フコトヲ政府委員モ述ベテ居リマスガ、隨テ此條項ハ削除致シタト思フデアリマス、モウ一ツ修正ヲ致シタイノハ第三十四條デアリマス、是モ前ニ申シマシタガ、官廳ノ爲ス催告ノ告示ニ、民法ニ依ラズシテ官廳ニ對シテ個人ガ催告ノ手續ヲ致シマス場合ニ、民法ノ規定ニ從フコト云フ偏頗ナルコトニハ私共反對ヲ致ス次第デアリマス、是ハ官廳ガ致ス告示デアデモ、個人ガ官廳ニ向テ致ス告示デアデモ、民法上ノ規定ニ從テヤリタイト思ヒマス、斯ウ云フ風ニ修正ヲ願ヒタイト思ヒマス、即チ自己自身ニ關スニモ民法ノ規定ニ依ル、サウ致シマスレバ催告ヲ致シマスニモ民法ノ規定ニ從テ個人カラ官廳ニ對シテ致ス催告モ、同様ニ民法ノ規定ニ從テ致スコト云フコトニナテ、同一ノ權利ニ對シテ同一ナル法律ノ下ニ行動ガ出ルコトニナテ公平ト考ヘマスカラ、左様ニ修正ヲ致シタイト思ヒマス

○委員長(指田義雄君) 他ニ修正ノ御意見ガゴザイマス

〔近藤君ニ贊成デス〕ト呼フ者アリ  
○委員長(指田義雄君) ソレデハ先ヅ其他ノ原案ニ御贊成デスナ、此修正ノ御意見ニ就テ討論ニ入りマス

○岩崎幸治郎君 一寸私ハ近藤君ノ御修正ニ御質問致シタイト思ヒマス、第三十四條ニハ時効中斷ニ就キマシテ特例ガアリマスガ、第三十三條ニ依ルト「時効ノ中斷、停止其ノ他ノ事項ニ關シ云々」ト云フコトガ既ニアルノデアリマスガ、近藤君ノ申サル、通りニ致シマスレバ、第三十四條ヲ削除スルト云フ方便宜ノヤウニ思ハレマスガ、如何デアリマスカ

○近藤達見君 私ハ甚ダ失禮デアリマスガ、此三十四條ヲ全然削除スルトコトニ致セバ、此目的ハ十三條ニ於テ貫徹スルト思ヒマス、唯今岩崎君ノ御尋ニ對シテ前ニ申上デマシタ三十四條ノ修正ヲ撤回致シマス、全然三十四條ヲ削ルト云フコトニ御訂正ヲ願ヒマス

○岩崎幸治郎君 他ニ御意見ハナケレバ私ハ修正案ニ對シテ反對意見ヲ申上ベマス、唯今鈴置君カラ第三十一條ノ第二項ヲ削除シタイト云フ修正ノ御意見ガアリマシ

テ、是ハ洵ニ一應御尤ニ思フノデアリマスケレドモ、私共ノ見聞シテ居ル所ニ依リマスルト、競争入札ハ洵ニ結構ノモノノヤウデアリマスケレドモ、事實之ヲ裏切テ居ル事情ガ非常ニ多クデアリマス、臺灣、朝鮮等ニ於テ該合事件ノ檢舉デ、世人ノ耳目ヲ驚動シタコトモ近キ既往ニアルデアリマス、法律上ノ關係カラ申シマス、該合スルコトニ就テハ色々議論ガアリマスケレドモ、内地ニ於テモ競争入札ト云フコトガ事實競争入札ニナテ居ナイ事情デモ、檢舉サレタ事實ハ甚ダ少ナイヤウデアリマス、實際ノ目撃スルト、先ヅ競争入札ニ付シタモノノ、眞ニ入札ノ際負ヲシテ取ラウト思フ者ハ少ナイ、其中ニ僅カニ一人位アルノミデ、其以外ノ者ハ日當ヲ取リニ行クト云フヤウナ者ガ多クデアリマス、即チ此競争入札ハ性質ニ於テハ非常ニ正シイモノデアリマス、今日ノ實際ニ於テハ甚ダ正シカラヌヤウニナテ居ルデアリマス、故ニ競争入札ニ依テ居ラヌ安心デアルトカ、競争入札ニ依テ居ル故ニ正當デアルト云フ事情ハ、ソレハ其衝ニ當テ居ル管理ノ上、責任者ノ上カラ申シ得ル言葉デアリマスケレドモ、國家ト云フ上カラ考ヘマス、競争入札必ズシモ利益デハナイ、競争入札必ズ正當デアリナイノデアリマス、ソレデハ此不便ヲ除ク途ハ法律ニ於テ生ジテ來ナケレバナラス、競争入札ヲスルコトガ不利益デアルト云フコトガ明カニナテ居ル場合ニ於テモ、法律規定ニ依テ競争入札ニ付サナケレバナラスト云フナラバ、是ハ法律規定ガ國家ノ利益ヲ没却スルモノデアル、斯ウ云フコトハ法律ノ衝ニ當ル者ガ能ク注意シテ、法律規定ガ國家ノ利益ヲ没却スルモノハ、ドウシテモ防ガナケレバナラヌノデアリマス、第三十一條ノ第二項ハ斯ノ如キ用意ノ下ニ規定サレタモノデアリマスルカラ、私ハ削除スル必要ヲ認メヌ、況ヤ第三十一條第二項ハ無條件ニ國務大臣ニ契約ノ自由締結ヲ許スモノデアリマセヌ、個々ノ場合ニ於テ契約ヲ爲スヲ不利益ト認メル場合ニ於テハ競争入札ニ依ラヌコトガ出來ルノデアリマシテ、國家ノ爲メニ不利益ナリト云フコトハ事實上ナクテハナラヌノデアリマス、此文字ハ甚ダ少ナイガ、千金ノ重ミヲ爲スモノデアリマシテ、事實上カウ申セバ誰人モ國民ヲ支配スル善良ナル大臣ヲ得タイ、併ナガラ人格ガ眞ニ善イ人デアるか惡イ人デアるか、惡イ事ヲ爲シ得ル場合ニ於テハ、惡イ事ヲシナイ者ヲ擇ミ出ス外ニ方法ガナイ、國務大臣ニ對シテ此制限ノ下ニ此自由ヲ與ヘルト云フコトハ、國家ガ大臣ノ人格ヲ試験シ、大臣ノ自利ヲ試験スル上ニ於テ、洵ニ好箇ノ機會ヲ得タモノト考ヘマス、法律上カウ見テ此法律ノ必要ヲ認メルノデアリマス、隨テ遺憾ナガラ鈴置君ノ御修正ニ贊成スルコトハ出來マセヌ、次ニ近藤君ノ第十一條削除修正ニ就テ意見ヲ申上マスルガ、是亦私ハ削除ノ必要ナシト

言フノデアリマス、第十一條ニナリマスルト「政府ノ豫算ニ定ムルモノ及特ニ帝國議會ノ協贊ヲ經タルモノヲ除クノ外災害事變其ノ他避クヘカラサル事由アル場合ニ於テハ翌年度ニ互ル契約ヲ締結スルコトヲ得」ト云フ規定デアリマシテ、如何ニモ新シキ規定デ、一見憲法第六十二條ノ第三項ニ抵觸スル如キ感ガアリマスケレドモ、憲法第六十二條第三項ハ所謂國庫ノ負擔ト爲ルベキ契約ハ議會ノ協贊ヲ得ルト云フノデアリマスガ、此契約ト云フ文字ハ具體的ノ契約ヲ要求シテ居ルノデアリマス、例ヘバ外國人ノ雇傭契約ニ關スル契約ハ、雇傭契約者即チ雇ハレル人ガ契約ノ固有分子デアル、併ナガラ何時ノ豫算ニ於テモ斯ウ云フ事ニ就テ一人ノ者ヲ定メタ事ハ一ツモナイ、具體的ノ契約ヲ要求スルコトハ憲法第六十二條ノ第三項ハ考ヘテ居ラヌノデアリマス、即チ利害相反シテ居ル二個ノ當事者ニ其事柄ヲ約束スルコトハ想像スルケレドモ、如何ナル權利、如何ナル目的ヲ持テ居ル契約ト云フコトマデ、立入テ、具體的ニ帝國議會ノ協贊ヲ經ナケレバナラヌト云フ趣旨デ、ナイノデアリマス、是ハ今日マデノ實際ニ徴シテ一點疑ナイモノト信ジテ居リマス、故ニ第十一條第一項ガ憲法ニ違反スルト云フコトハ到底言フコトガ出來ナイノデアリマス、況ヤ政府委員ノ説明ニモアリマシタガ、會計年度ノ將ニ終ラントスル時ニ方テ天災地變等ノ爲メニ翌年度ニ互ル契約ヲ爲スニ非ズンバ、必要ナル施設サヘモ出來ナイト云フ事ガアルト云フコトハ、想像ニ難カラスノデアリマス、故ニ從來ノ法律ノ缺陷ヲ補フ爲メニ此第十一條第一項ノ規定ハ適當デアラウト考ヘマシテ、且ツ憲法第六十二條第三項ノ趣旨ニ合致スルガ爲メニ、前項ノ規定ニ依リ翌年度ニ互ル契約ヲ爲スコトヲ得ヘキ金額ハ毎年度帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ムト云フ法文モアルノデアリマスガ故ニ、第十一條規定ノ全體ハ帝國憲法第六十二條第三項ノ規定ニ益、合致スル趣旨ヲ持テ居ルモノデアリマシテ、抵觸スル等ノ憂ハ更ニ無イノデアリマス、終リニ近藤君ノ第三十四條ノ削除ニ就テ反對ノ意見ヲ申上デマスルガ、私モ實ハ三十四條ヲ見マシタ時ニ、何故斯クノ如ク不權衡ナル規定ヲ置イタノデアリカト云フコトヲ感想致シマシタ一人デアリマス、然ルニ現行法ニ於ケル所ノ此種々ナル法令ヲ調ベテ見ルト公法上ノ債權ノ取立上ニ於キマシテモ民法ノ規定ト非常ニ遠イ差ガアルノデアリマス例ヘバ税金ノ取立ニ於テ、個人ガ差押ヲスル場合ニ於テハ執達吏ヲ向ケナケレバナラナイ、差押命令ヲ得ナケレバナラナイト云フヤウナ事情モ官廳ノ差押ニハナイ、即チ此

官廳ノ權利行使ニ就キマシテハ、私人ノ權利行使ト格段ナ  
ル規定ヲ設ケテ居ルコトガ、立法例ニ於テ發見スルコトガ出  
來ルノデアリマシテ、此三十四條ノ規定ハ現在ノ立法  
ト云フモノ、上ニ比較致シマシタラバ、決シテ不權衡ト云  
フコトハ言ヘナイト思フ、ノミナラズ此三十四條ノ規定ヲシ  
テ不權衡デアルト云フノデアリマシテ、此改正案ノ第十  
五條ハ如何ニ之ヲ見ラレルノデアリマセウカ、改正案ノ第十  
五條ノ規定ニ依リマシテ、國務大臣其ノ所管定額  
ヲ支出セントスルコトハ現金ノ交付ニ代ヘ日本銀行ヲ支拂  
人トスル小切手ヲ振出スヘシト云フ規定ガアル、即チ小切  
手ノ振出ハ現金ノ交付ニ代ハルノデ、小切手ノ交付ガ濟メ  
バ債務ハ辨濟セラレタコトニナルノデアアル、之ニ反シテ吾  
ガベキモノデハナイ、斯ノ如ク政府權利ノ行使ニ關係致シマシ  
テハ、根本ニ於テ確實性ヲ持テ居ルモノト法律ハ見テ居ル  
ガ故ニ、個人ノ權利行使ノ場合ト其差ノアル事ハ幾ラモ認  
メ得ラル、ノデアリマシテ、獨リ時効中斷ニ限リテ、此規  
定ガアル所以デアリマシテ、ハミナラズ民法ノ規定ニ  
於キマシテ、時効中斷ノ爲メニスル催告ハ六箇月内ニ裁判  
所ノ手續ヲ經ンケレバナラヌコトニナテ居リマシテ、是ハ何  
故デアアルカト申シマス、催告意思ト云フモノニハ、請求ノ意  
思ト且ツ威力性ヲ持テシメナケレバナラヌト云フコトガ立法  
ノ趣旨ニナテ居ル、此威力性ヲ持テシメルト云フコトハ、時  
効中斷ニ關スル各國ノ立法例ニナテ居リ、請求ニ確實性  
ヲ條件トスルモノデアリマシテ、請求ハ何處マデモ確實性  
ヤナケレバナラナイ、ソレ故ニ裁判上ノ請求ノ手續ヲセヌケ  
レバ時効中斷ノ效果ガナク、ハミナラズ民法ノ規定ニ  
程六箇月内ニ裁判上ノ請求ヲセヌケレバナラヌ、請求ヲ致  
シテ後ニ六箇月内ニ裁判上ノ請求ヲシナケレバ、時効中斷  
ノ效力ハ發生シナイ、併ナガラ最初ノ請求ト云フモノノダケハ  
何處マデモ確實的ノモノデアナケレバナラナイノデアリマス、請  
求ガフワシテ居シテモ六箇月内ニ裁判上ノ手續ヲスレバ  
ソレデ宜シト云フノチヤナイ、何處マデモ請求スルモノハ確  
實性ノモノデアナケレバナラヌ、此確實性ノ上ニ今一ツ威力  
性ヲ添加サセルト云フコトハ、民法ノ精神デアアルノデアアル、然  
ルニ官廳ノ此納入告知ニ於キマシテハ、確實性ハ無論ノ  
事、威力性モ無論持テ居ル、個人ノ發スル所ノモノト威力  
ト云フ上ニ於キマシテハ到底同日ノモノデアナイノデアリマス  
ガ故ニ、此三十四條ノ規定ハ又當然ナリト考ヘルノデアリ  
マス、以上ノ理由ニ依リマシテ、私ハ遺憾ナガラ給置君並ニ  
近藤君ノ御提出ニナリマシテ修正案ニ反對致シマス  
○近藤達見君、私ハ給置君ノ修正ニ賛成ヲ致シマス、唯  
今岩崎君ノ御意見デアリマシタガ、此規定ガ大臣ヲ試驗ス

ル所ノ好箇ノ規定デアテ、此第二項ヲ削除スルコトニハ反  
對デアルト云フヤウナ御話デアリマスガ、元來此競争入札ト  
云フコトガ弊害ガアルト云フコトノ御話ノヤウデアリマスガ、  
固ヨリ競争入札ニモ弊害ガアル、又任意契約ニモ弊害ガ伴  
フト云フコトハ申ス迄モナイ次第デアリマス、而モ今日迄ノ  
事態ニ見レバ制限列舉主義ヲ採テ居シテモ、其範圍ヲ屢  
侵シ弊害ヲ生ジテ居ルノデアアルカラ、斯ノ如ク國務大臣ノ  
自由裁量ノ範圍ヲ擴張シテ參リマスレバ、例ヘバ大臣其人  
ハ人格ノ立派ナ人デ、信用ヲ拂フベキ人デアリマシテモ相  
手方ガ不誠實デアラナラバ、同ジク弊害ヲ生ズルノデアリマ  
ス、又原則カラシマシレバ、弊害ノ生ジ難イ所ノ方法ヲ採  
テ、制限列舉主義ニ依リテ居シテ舊法ノ方ガ、私ハ結構  
ダト思フノデアリマス、然ルニ之ヲ全部廢止シマシテ、殆ト總  
テヲ國務大臣ノ自由裁量ニ一任スルト云フコトハ、競争入  
札ヲ原則トシテ居ル此原則ニ對シテハ頗ル矛盾シタル規定  
ト考ヘマスカラ、私ハ多ク言フ必要ハナイノデアリマス、此  
原則カラ見マシテモ此第二項ハ削除スベキモノト考ヘマス  
カラ、給置君ノ修正案ニ賛成致シマス、尙ホ一寸私引續キ、  
自分ノ修正ニ對シテ岩崎君ノ御意見ガアリマシタカラ、一  
言附加ヘテ置キマスガ、憲法上ノ議論トシマシテハ、私ハ唯  
今ノ時効ノ問題デアリマス、此問題ニ付テ、岩崎君ハ政府  
ノ權利ニ關シテハ屢、斯ノ如キ偏頗ナル規定ヲ設ケテアルト  
云フヤウナ御話ガアリマシテ、是ハ當然デアルト云フ御話デ  
アリマスガ、ソレガ所謂昔カラ謂フ所ノ官僚主義トデモ申ス  
ノデアリマスガ、官權萬能ト云フヤウナ時代ニ於テ日本ノ法  
律ハ總テ作ラレ、國民ノ權利ナドハ寧ろ輕視サレテ拵ヘラレ  
テアルノガ、日本ノ法律ノ全般ニ互テノ現象デアリマス、同  
一ナル權利ノ下ニアテテハ、政府デアラウガ、個人デアラウガ、  
ヘマシテモ當於デアラウト思フノデアリマス、獨リ政府ナルガ  
故ニ特殊ノ權利ヲ有シ、人民ナルガ故ニ政府ト同一ナル權  
利デア行使スルコトニハ、非常ナル困難ヲ感ズルト云フヤウナ  
コトデアリマシテハ、國家ノ法律ノ權威ト云フモノモ無クナ  
ルコト、私ハ考ヘテ居リマス、同一ナル規定ノ下ニ置クト云  
フコトガ當然ノコト、考テ居リマス、ソレカラ之ニ就キマシテ  
十五條ヲ御引用ニナリマシタ、國務大臣其ノ所管定額ヲ支  
出セントスルコトハ現金ノ交付ニ代ヘ日本銀行ヲ支拂人ト  
スル小切手ヲ振出スヘシト云フコトニナテ居リマス、是  
ハ法律解釋ト致シマスレバ、個人カラデモ日本銀行ノ小切  
手ヲ振出スコトガ出來ルノデアリマス、日本銀行ハ我國ニ  
於テ絕對信用ヲ有シテ居リ、政府モ日本銀行ニ金ヲ預ケテ  
アルト云フコトハ、國民モ信ジテ居リマスカラ、日本銀行ノ  
小切手ヲ國務大臣ガ振出シタ場合ニ不渡ニナルコトハナイ

ト云フ確信ハ持テ居リマスガ、實際問題トシテハ支拂ノ出  
來ナイ場合ニモ豫想ガ出來ルノデアリマスカラ、此等ノ規定  
ヲ此時効問題ニ關聯シテ御定メニナルコトハ、少シク御考  
ガ違テ居ルヤウニ思ヒマス、此時効中斷ノ規定ノ如キモノ  
ハ、民法ニ於テ規定シテアル以上ハ、此規定ニ從フベキハ當  
然ト考ヘルノデアリマス  
○給置倉次郎君、ハ近藤君ノ修正ニ賛成ノ意見ヲ簡單  
ニ申述ベマス、既ニ近藤君ノ御辯明ニ依リテ十分盡キテ居  
リマスガ、十一條ノ翌年度ニ互ル契約ヲ締結スルト云フコ  
トハ、是ハ私ハ憲法ニ於テ其年度ノ歲入歳出ハ豫算ヲ以テ  
協贊ヲ經ベシト云フ協贊權ヲ束縛スルモノデアリマシテ、明  
カニ憲法ニ違反スルモノト信ジテ居リマス、假令金額ヲ定  
マシテモ——次項ニ依リマシテ豫メ金額ヲ定メタト致シマシ  
テモ、翌年度ニ互リマシテ、其年度ノ豫算ヲ協贊スルニ當リ  
マシテ、憲法上自由ノ立場ニアル協贊權ガ此會計法ノ規定  
ニ依リテ束縛サレルト云フコトハ、明カニ憲法違反デアリマ  
ス、金額ヲ定メタカラ違反デナイト云フ、理窟ハナイノデアリ  
マス、假令是ガ憲法違反ニ非ズトスルモ、斯ル天災地變、其  
他避クベカラザル場合ト云フモノヲ豫メ豫想シテ、金額ヲ定  
メテ置クト云フコトハ出來ナイ、災害トシテ如何ナル天災地  
變ガ起ルカト云フ豫想ハ出來ナイ、例ヘバ先年ノ岐阜等ノ  
大震災ガ起リタヤウナ場合ニハ、多少ノ金額ヲ定メ置キマシ  
テモ、中々其範圍内デ止メルコトハ出來ナイデアラウト思  
マス、デアリマスカラ假令第二項ガアリマシテモ豫メ金額ヲ  
定メルコトハ困難デアアル、殊ニ大臣ガ責任ヲ負フテヤラル、ト  
云フ例ハ是マデ屢、アリマス、之ヲ豫メ法律ニ規定ヲ致シテ  
其責任ヲ輕カラシメルト云フガ如キハ宜シクナイ、況ヤ其金  
額モ豫メ豫定スベカラザルコトデアリマス、天災地變ト云フ  
ヤウナコトハ豫定ガ出來ナイ、豫定ガ出來ナイモノニ僅カナ  
金額ヲ定メテ置イテ、大臣ノ責任ヲ輕カラシムルガ如キ條項  
ヲ設ケルコトハ宜シクナイ、是ハ假令憲法ニ抵觸セザルモ甚  
ダ宜シクナイ、規定デアルト思ヒマス、其次ノ三十四條ノ方  
ハ、是ハ政府ガ債權者タルト人民ガ債權者タルトフ間ハズ  
其待遇ヲ平等ニスル事ガ適當デアアル、成程便利ト云フコト  
ハ多少ゴザイマセウガ、斯ル差別的待遇ハ撤廢シタ方ガ宜  
シト思ヒマス、ソレカラ唯今岩崎君ガ十五條ヲ御引用ニ  
ナリマシタコトニ就テ、近藤君カラ御話ガアリマシタガ、私ハ  
十五條ト云フモノハ極メテ平易ニ解釋シテ居リマス、國  
務大臣ハ現金ヲ持ツトハ出來ヌ、國務大臣ノ命シタル支  
拂命令官ニ依リテ支拂命令書ヲ發スルト云フコトニナテ居  
リマシテ、國務大臣ガ直チニ金ヲ支出スルコトハ出來ナイコト  
ニナテ居リマスカラ、此法律ノ結果支拂命令ヲ小切手ト  
變ヘタケデアリマシテ、別ニ人民ト政府ノ間ノ關係ニ變

コトハナイ、唯ダ從來支拂命令ヲ以テ拂テ居タモノヲ、小切手ニ依ッテヤルト云フダケノコトデアリマシテ、即チ唯ダ現金支拂ノ手續ヲ小切手ニ變ヘタダケノモノデアリマシテ、不渡ノ場合ニ其際ニハソレデ完了シタモノトハ、見ラレナイコトハ先刻近藤君ノ御話ノ通りデアリマス、併シ私ハ強キ意味ニ於テ之ヲ申スノデアリマセヌガ、寧ろ是ハ削除シテ平等ニスル事ガ至當デアルト思ヒマス、仍テ本員ハ近藤君ノ説ニ全然賛成デアリマス

○岩崎幸治郎君 議論ニ互ルコトハ、又本會議テ少數意見モ出マセウカラ、其時ニ申スコト、致シマシテ、今近藤サンノ御話ノ中ニ、偏頗ナル取扱ヲ今日ニ於テシテ居ルト云フコトヲ私ガ言フタト云フヤウナ御言葉ガアリマシタガ、私ハ特別ナル取扱ヲシテ居ルト云フコトハ申シマシタガ、偏頗ナル取扱ヲシテ居ルト云フ言葉ハ用キナクヤウニ記憶シテ居リマス、若シ偏頗ナル取扱ヲ是認スルト云フコトニナリマスト、色々間違ヲ起ス虞ガナイトモ限リマセヌカラ、念ノ爲メニ申上ゲテ置キマス

○近藤達兒君 私ハ偏頗ナルト云フ言葉ヲ用井マシタガ、ソレハ岩崎君ガ用キタト云フテ御話シタノデハナクッタノデアリマス、私カラ見テ偏頗ナル規定ト、斯ウ云フ意味デ申シタノデアリマス

○委員長(指田義雄君) ソレデハ四案共是デ討論ヲ終結シタモノト見テ差支アリマセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○委員長(指田義雄君) ソレデハ討論ヲ終結致シマシテ、採決致シマス、先ゾ會計法ニ就テ採決致シタイト思ヒマス、會計法ノ第十一條ヲ全部削除スベシト云フ近藤君ノ御意見ニ御賛成ノ方ハ舉手ヲ願ヒマス

贊成者 舉手  
○委員長(指田義雄君) 少數デアリマス、消滅致シマシタ、次ニ第三十一條第二項ヲ削除スベシトスル鈴置君ノ御説ニ賛成ノ方ハ舉手ヲ願ヒマス

贊成者 舉手  
○委員長(指田義雄君) 少數、否決サレマシタ、次ニ第三十四條ヲ全部削除スルト云フ近藤君ノ修正説ニ御賛成ノ方ハ舉手ヲ願ヒマス

贊成者 舉手  
○委員長(指田義雄君) 少數否決ニナリマシタ、念ノ爲メニ原案賛成ニ就テ伺ヒマス——別ニ御異論カナケレバ可決致シマシタ、次ニ會計検査院法中改正法律案、明治三十九年法律第三十四號中改正法律案、臨時國庫證券法中改正法律案、此三案ヲ一括シテ採決シタイト思ヒマス、之ニ就テ御異存ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕  
○委員長(指田義雄君) 御異議ガナイト認メマシテ、可決致シマシタコトヲ宣告致シマス、是デ此會ハ結了致シマシタ  
午後三時三十一分散會